令和６年度第１回栗東市社会教育委員会議　会議録

日　時　　令和６年７月２５日(木)10:27～11:53
場　所　　危機管理センター 大研修室
出　席　　奥野委員長、奥村副委員長、朽木委員、山本委員、髙野委員、三好委員、川村委員、寺田委員、木村委員、西尾委員、川那邊委員、大屋委員、田中委員、飯村委員
欠　席　　大住委員

関係課・事務局出席
今井教育長、太田教育部長、鎰廣所長（少年センター所長）、松田副所長（自然観察の森副所長）、安本参事（人権擁護課参事）、赤井課長（スポーツ・文化振興課長）、大西館長（歴史民俗博物館館長）、西村館長（図書館館長）
事務局：川津課長（生涯学習課長・自然観察の森所長）、橋内課長補佐、平子社会教育指導員、原

１．開会
２．市民憲章唱和
３．あいさつ　奥野委員長・今井教育長
４．案件
（１）令和６年度栗東市社会教育関係事業報告について 資料１

進行：奥野委員長
資料１に沿って説明

生涯学習課(川津課長)	生涯学習推進事業、青少年教育推進事業、青少年対策（育成）事業
少年センター(鎰廣所長)	非行防止・啓発事業、非行少年対策事業、関係機関・団体との連携、効率的な組織運営事業
自然観察の森(松田副所長)	各種イベントの実施、施設等の安全対策など、園・学校との連携及び諸団体への支援・協力、森のＰＲ活動、再来園者を促す取組み
人権擁護課(安本参事)	地区別懇談会、人権啓発リーダー講座、人権・同和教育推進協議会、人権教育ネット協議会及び学区運営委員会、人権教育研究大会、小柿地域教育推進事業
スポーツ・文化振興課(赤井課長)	文化財保護事業、文化振興、スポーツ振興
歴史民俗博物館(大西館長)	展覧会開催事業、市民参画推進事業、博学連携事業、博物館施設の適正管理
図書館(西村館長)	図書館サービス事業、その他事業、重点事業

（委員長）
　ご説明ありがとうございました。
　では、各委員の皆様よりご意見を伺いたいと思います。
　この会議は、社会教育委員間の意見や情報交換の場としたいと思います。
　市に対する予算などの要望ではなく、社会教育事業へのご意見などを交換していただければありがたいと思います。
　委員の皆様からのご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。

（委員）
　３ページの青少年推進事業の中で、アドベンチャーキャンプについて、今年度は時期が未定となっていますが、例年であれば夏休みに企画されておりますが、今の時期に未定というのは、どのような意図であるのかということと、子どもたちや保護者の都合もございますので、早めに周知していただく方がよいのではと思います。

（生涯学習課）
　アドベンチャーキャンプにつきましては、３事業の部分について、時期等未定と記載しておりますが、実行委員会の立ち上げを準備する中で、企画を進めている状況でございます。
　時期につきましては、昨年度につきましては、８月の真夏の時期と台風の時期と重なりましたが、今年度につきましては、日帰りでの形式に改めさせていただく方向性で検討しております。時期といたしましては、10 月から 11 月ぐらいを目処に実施していきたいと考えているところでございます。日程等が決定次第、周知してまいります。

（委員）
　ありがとうございます。
　できましたら、早めに広報とかに掲載していただければありがたいと思います。

（委員長）
　各課より多種多様な活動を企画・立案していただいております。もう少し詳しくお尋ねしたいことがあればお願いします。
　各課からも、済んでいる事業で、「何かしらの問題点があった」、「成果としてこのようだった」、「参加された方の声がこのようだった。委員の皆様のご意見を賜りたい」というような、ご説明があればお願いしたいと思います。

（副委員長）
　図書館の「子どもの読書推進事業」で、「すべての赤ちゃんに絵本をプレゼントする」と説明いただきました。これは図書館独自のものではないということでしたが、もう少し詳しく説明をお願いします。

（図書館）
　この事業は、子育て支援課が担当しておりまして、10ヶ月健診の時に、すべての赤ちゃんに、本を渡しながら絵本のことをお話されています。
　赤ちゃんにお話しされるのは、児童館の方が交代しながら参加されるということを聞いております。
　図書館や児童館については、その場でチラシ等で案内していきます。図書館では、来てくださった方に初めて作ったカードということで、記念台紙や写真スポットなどを用意して、利用につないでいき、そこから、子育てコーナーなどを案内しています。子どもたちに通っていただけるよう取り組んでいきます。

（副委員長）
　ありがとうございました。
　他市では、民生委員が赤ちゃん訪問に保健師さんと一緒に行かれています。民生委員も何かしら地域の人と繋がりたいと思っておりますので、赤ちゃん全員に本をプレゼントするというのは同じようなことだなと思いました。栗東ではどのような取り組みをされるのかと思っていましたら、子育て支援課の10ヶ月健診でとのお話を聞かせていただきました。
　子どもたちにとって、親にとっても本での繋がりをゼロから繋がるというのは、とてもいいことであると思っております。
　これからも繋がりをよろしくお願いします。

（委員）
　６ページ、少年センターの非行防止・啓発事業でお伺いしたいのが、非行防止教室の実施で、小学生や中学生が対象とありますが、非行防止というのは学校もあれば家庭の対策も大事だと思っております。例えば、家族を対象にしたこのような教室を計画されているのか、それとも計画はあったが実施できなかったのか、そのあたりの今後の状況や背景があれば教えていただきたい。もう１点、非行というのは、事件があったりであるとか、何か物事があれば目に見えてわかるのですが、同じ小学生、中学生でも引きこもりになっている方もおられるので、青少年の健全育成という観点でいけば、そういう子どもたちへの何か対策というのが必要ではないかと思っており、そこについての把握や活動の取り組みがあればお伺いしたいと思います。

（少年センター）
　まず、非行防止教室や薬物乱用教室で、子どもだけではなく、その生活している家庭で家族へ発信することについては、非常に大事なところだと思います。
　その教室で、子どもたちが今日聞いたことを家に帰ってから、「今日話を聞いてきた」とか、リーフレットや資料などがあればそれを必ず家の方に見せていただきたいとのことで、間接的に伝えております。
　それから、昨年度ですが、「非行防止教室５歳児」がありました。
　昨年は３園だけだったと思いますが、希望のある園に行かせていただきました。５歳児に非行防止教室を実施し、教室は園の方で参観にされていまして、子どもと親が一緒に聞いてくれるということ

で、「今日このような話があったね」ということを、家庭に持ち帰ることができるのでよいことだと思っています。

学校や園の方でも、参観という形も取り入れてもらえるよう検討していただければと思います。私たちが、家庭に案内して来てくださいというのは、教室場所が学校や園なので、学校や園から発信していただく形がいいのではと思います。

引きこもりの件ですが、引きこもりや不登校と言われるようなことに課題が大きくあるのは存じております。

私たちは、非行防止という部分で非行回避予防として個別での対応をさせていただくのですが、顔の見えない子どもに、そこまで入り込んでいくのは少年センターでは難しいかなと思っています。

ただ、関係機関に相談に来られたときや、少年センターに来られたときには、面談し、関係の強い機関の方への紹介や一緒に同行していくことはしております。

小学生、中学生については、学校教育の部署になってきますので、市の教育委員会学校教育課の方で対応していくことになります。

（委員長）
ありがとうございます。

（委員）
子どもが家に帰って「こんなことがあったよ」とか家庭で会話できる関係であれば、そこは良好なところかなと思っていますので、親が直接来てもらえる対策は考えていただきたいと思います。

もう 1 点は、引きこもりの関係ですが、メンタル面の対応は難しいことは重々わかるのですが、そういうところについても手を差し伸べることができるいろんな機関から支援できるところは作っていかなければならないと思いますので、そのあたりもよろしくお願いしたいと思います。

（委員長）
ありがとうございます。

（教育長）
少し補足します。

不登校の問題は全国的に非常に深刻な問題でして、その数が非常に増加しています。

栗東市においてもそういう傾向があります。

栗東市の方では、他市に先駆けてある取り組みをしております。不登校といいますのは学校の教室に入れることをずっと目標にされているものを、栗東市の方では、平成 16 年から、教室には行くことができないけど、学校には何とか来ることができるのではないかと、居場所づくりというのを進めていまして、昨年度にすべての小学校、中学校に、スペシャルサポートルームということで、居場所づくりの場を設置しました。

現在は、自分の教室にはなかなか入ることができないけれど、学校には出向いていける、そしてまた、学校に行けばそういうところで対応できる場所を設置して、それを社会的自立につなげていけたらなという取り組みをしております。

ただ、場所は設置しましたが、まだまだそこに常駐する職員がすべての時間にいるわけではございませんので、今後の課題として、いつでも迎えられるような体制をしながら、社会自立につなげていけたらなと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）

学校として、不登校の子どもたちへの支援とかに対して、学校は一生懸命色々な対策を練ってくださっておりますが、引き込もりの年齢は何歳で終わりということではありません。大人の方も引きこもっている方もおられますので、“地域づくり”、ここが大事になってくるのではないでしょうか。それが生涯学習、社会教育に繋がっていくのではないかと思います。

引きこもりは本当に誰しもが陥る可能性があり、絶対起こらないということではありませんので、本当に何かこう、外に出ていけるような地域での事業であるとか、1 回のぞきに行ってみようかというような事業とかが展開されることを望んでおります。

引きこもりについては、他の課でも一生懸命対策を練っておられますので、この社会教育委員の会議の中では学校の方からの支援策とかをお尋ねしておりますけども、違う部署ではまた、地域全体含めてのどうするか、どう支援していくかというのも協議されていますので、その部分についてはご理解いただきたいと思います。

他に何かお尋ねしたいことがございましたら。

（委員）

19 ページの一番下に文化ゾーンを形成する自然観察の森、図書館、歴史民俗博物館で、関連施設との連携事業の実施とありますが、今までその日に実施していても、それぞれはそれぞれでやっているという形であり、連携という形にはなっていない。同じ日にイベントをやっている形だったので、これは本当に連携という形にしていった方がいいのではないかなと思っておりまして、例えば、図書館に本を置いておいて、歴史民俗博物館ではこんなテーマで実施する、自然観察の森では木の実の観察をテーマに実施するとか、何か共通のテーマを決めておいて、そのテーマになった本をまず図書館で展示し並べている。それを借りて、自然観察の森に行ったり、歴史民俗博物館に行ったりしての繋がりで、それで初めて連携だと思います。同じ日にそれぞれが何かをやっているだけでは連携にならないと思いますので、そのような形で連携していただき、1 日そこにいる形を作っていただくようなイベントにしていただきたい。

今年度は無理でしょうから、来年度あたりから 3 施設は近いところにありますから、それができるようになればいいなと思っています。

連携していると聞いていて、いざ行ってみたらそれぞれが単独で何かやっているということだけだったので、それをやっていただけたら、本当の連携になるのではないかなと思っております。

（委員長）

ありがとうございます。

（図書館）
　平成 28 年からいろいろ取り組みをしてきました。
　連携というあり方に関しても、1 日にいろいろ回っていただくのも難しいので、3 館を順番にまわっていただくとか、期間中にいろいろ体験していただくというのが、今現在の状況でございます。
　今年度は、秋の間に「いろいろ参加してください」という形になっておりまして、広報も合同でいたします。今後、市民の方が実際いろいろ行きたいと思っていただけるような活動を、それぞれが工夫し、相談しながらやっていきたいと思います。

（委員長）
　ありがとうございます。
　本当に今おっしゃっていただいた連携、一連の繋がりのある事業は大事かなと思います。
　本当に貴重なご意見ありがとうございます。
　また各課も連携しながら、例えば、音楽を聞いていて、この楽器のことをもっと知りたいと思ったら横にその本があるとか、そういうことはすごく必要ですね。
　また、本から学んで、その楽器の音を知りたいとか、そういうのも連携した事業の中で展開していただければ本当の一連の連携という事業に発展していくのではないかなと思います。
　またよろしくお願いします。

（委員長）
他に何かございませんでしょうか。

（委員）
　社会教育という観点でいきますと、“地域”というのがすごく大事です。地域がやらなければいけないというところでいきますと、例えば、各学区で今まででしたら秋に運動会という形で開催していたのが、今は、スポーツフェスティバルとかスポーツ大会というような形に内容や名称が変更されています。
　それは、参加される皆さんが、なかなか時間的に難しいであるとか、高齢の方が多いとか、なかなか走れないとか、いろんな理由でもう少し簡素化していこうということで、結局、今まで 1 日開催していたものが、半日になった形で、何とかスポーツフェスティバルという名称で開催されている。
　来年実施の国民体育大会と言っていたのが国民スポーツ大会、スポーツという名称が優先されていくということなので、それに沿った形になっています。
　スポーツとはみんなで楽しむものであり、やるだけじゃなくて見る楽しさ、それを支える楽しさ、そういうものに繋がっていく、そういうやわらかい感じの形で、これからスポーツが発展していき、それが地域の活性化に繋がっていくことがすごく大事なことだと思っています。
　そのような中で、「やらない」という人の声がすごく大きくて、「やりたい」という人はあまり声を出さない傾向があって、結果的に、1 日やっていたものが半日になったりして短縮される傾向になっています。
　それは、地域をこれから活性化していく上で、「これで大丈夫かな」と危惧しております。
　なので、「やらない」という方は、今までは参加していなのに「やらない」と発言する方が多くて、

「やりたい」という人は、今まで参加したから「やりたい」という方が多くて、やはり参加した方からの声はすごく大事だと思っています。

そのように参加した方からの声をもっと発信できるような、生かしていけるような社会教育活動をやっていければもっとよくなっていくのではないかと思います。そうなれば、本来のスポーツ大会、スポーツフェスフェスティバルというのが、半日なら「面白くないよ」と、「やっていこうよ」というような形で、これから発展していくのではないかなと思っています。

こういうところが社会教育の中で大事なところだと思っていますので、参加した方の声をいかに、拾っていくか、ニュースを見ていても、いろいろ説明されるより、参加した人の「楽しかった」という声を聞くだけで、楽しかったことがその一言で伝わってくるのと一緒で、やはりその参加した人の声はすごく大事かなと思います。

具体的にどうかというのはありませんが、そのようなことは社会教育の 1 つかなと思っております。

（委員長）
ありがとうございました。

（教育長）

来年の国民スポーツ大会、障害者スポーツ大会のこともお話いただきましたが、私も 10 年前には、県のスポーツ協会の方におりまして、いろんな各地の国体を、当時は国体と言っておりましたが、そこをまわらせていただきました。

その時は、選手は全国から集まりますが、選手はその地域の方々と触れ合うのも非常に楽しみにしていまして、私たちもいろんな大会に行かせていただきましたが、その地域で迎えていただくおもてなしというか、それが非常に選手の心に残るもので、ここにお集まりの皆さんもそういったところでも、またご尽力いただけますようよろしくお願いいたします。同時に、先ほどありましたように、正式競技は、本市はレスリングと男子ゴルフですが、あと障害者スポーツ大会それからオープン競技がいろいろあります。それも非常にスポーツに馴染むというか、親しむ機会にはなると思いますので、ぜひふるって皆さんにご参加いただきますように、また、それからいろんなところにお声掛けをしていただけると大変ありがたいと思います。
どうぞよろしくお願いします。

（委員長）

本当に、運動会があったときというのは、地域あげていろんな競技に出ていました。「私、競技できない、走れないけど応援になら行ける」。この応援も参加なのです。

地域のお年寄りや小さなお子さんも、競技には出なくても人を応援する。それが巻き込む 1 つの事業だと思いますし、いろんなスポーツのところへ出向いて行き、そこで楽しむ。また発信していくことが、本当に広がりを持ってみんなで参画することに繋がっていくのだと思います。

先ほど私も冒頭で申しあげましたように、アイデアをたくさん出して企画してくださっていますので、私たちも委員として、いろんなところに行ってみて、本当に地域の声を吸い上げて、次につなげていきたいと思っております。

また皆さんの参画、よろしくお願いいたします。
他にございませんでしょうか。
では、他にご意見も無いようですので、事務局の方で、その他について説明をよろしくお願いします。

（事務局）
その他
・９月６日 近畿地区社会教育研究大会京都大会の参加者報告について
・８月２日 滋賀県社会教育委員連絡協議会研修会の案内について
・滋賀県社会教育委員活動ハンドブック送付案内について
・第２回社会教育委員会議開催案内について

５．閉会あいさつ　奥村副委員長